



「都留文科大学の ESDプログラム～ SDGsへの取り組み」

都留文科大学

環境ESDプログラム運営委員長

別宮有紀子



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさを守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 	

17のゴールと、それぞれのゴールに関する具体的目標(ターゲット)

SDGsとは？



国際連合広報局

2

2015年 国連サミットで採択

「持続可能な開発のための2030
アジェンダ(行動計画)」
に掲げられた17の
「持続可能な開発目標(SDGs)」

貧困・差別をなくす 持続可能な豊かな生活 地球環境の保全

2016年1月1日に正式に発行

2030年までの15年間に、世界中の全ての人々が
SDGsの達成に向けて努力することが期待されている

4 質の高い教育を みんなに



すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

- 4.1 2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
- 4.2 2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。
- 4.3 2030年までに、全ての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
- 4.4 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
- 4.5 2030年までに、教育におけるジェンダ―格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
- 4.6 2030年までに、全ての若者及び大多数(男女ともに)の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。

4 質の高い教育を みんなに



すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

4.A 子供、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、全ての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。

4.B 2020年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、並びにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術（ICT）、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。

4.C 2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。

ESDとは？

Education for Sustainable Development 持続可能な発展のための教育

持続可能な社会の担い手を
育成するための教育

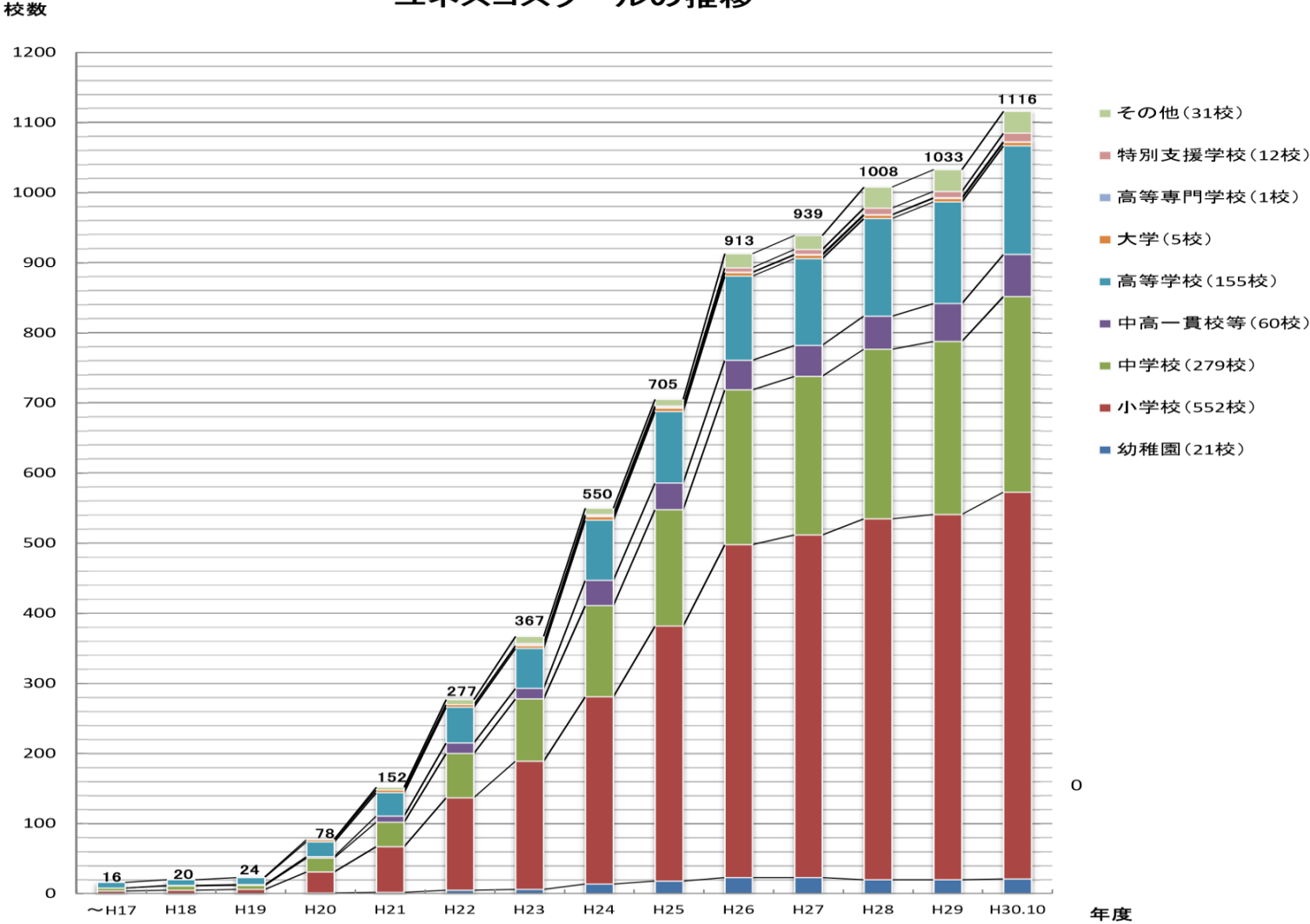
2002年 日本が提唱し、国連で採択

2005年－2014年 ESDのための10年
ユネスコが推進

日本ではユネスコスクールとして認定された
全国の幼稚園～大学がESDに取り組む

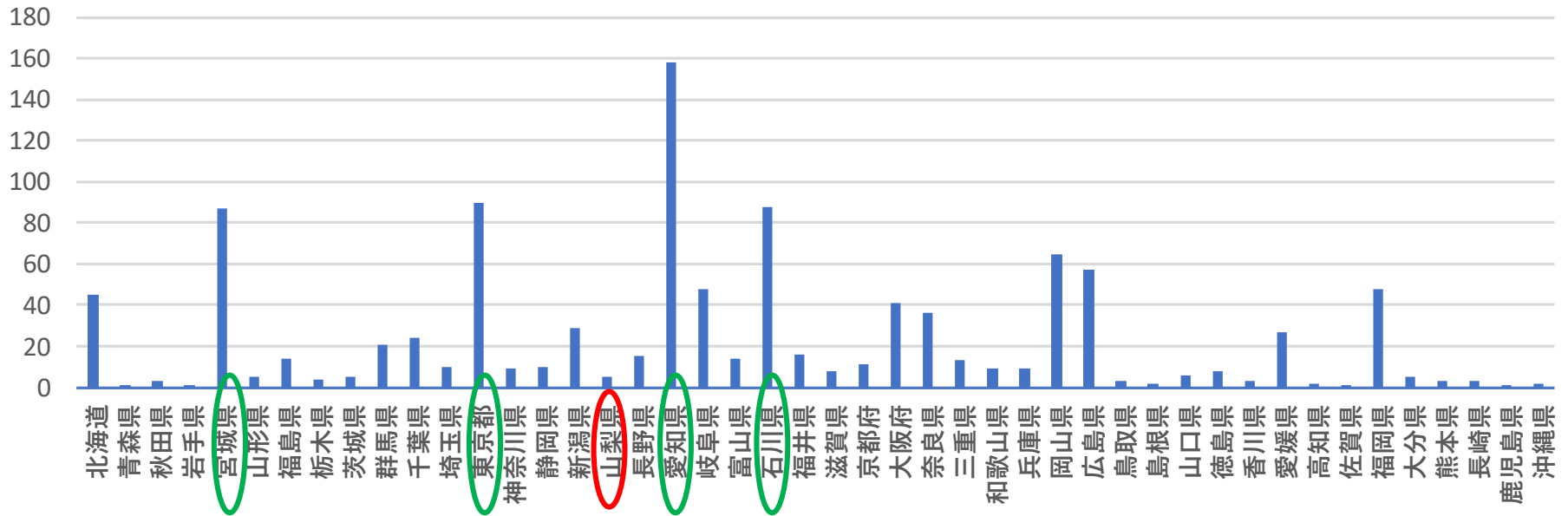


ユネスコスクールの推移



1000を超えるユネスコスクールがESDに取り組んでいる！

都道府県別ユネスコスクール数（H30年度）



愛知県、東京都、宮城県、石川県でユネスコスクール加盟校が多い

山梨県では・・・

- 南アルプス市立櫛形西小学校
- 南アルプス市立芦安小学校
- 南アルプス市立芦安中学校
- 山梨英和中学校・高等学校
- 山梨県立巨摩高等学校

ちなみに、
都留文科大学は
ユネスコスクールに加盟していない！

都留文科大学 環境ESDプログラム

2011年から実施

目的： 持続可能な社会の構築のために
各種環境分野で活躍できる人材を育成

背景

大学周辺の豊かな自然

フィールド・ミュージアム構想

地域交流研究センター

社会科学（環境コミュニティー創造専攻）

初等教育学科（自然環境科学系）

比較文化学科

自然環境

+

地域との連携

+

環境分野の専門家

都留文科大学

フィールド・ミュージアムの歴史

今泉吉晴氏(本学名誉教授)が提唱・実践

過去40年間の実践の歴史！

- ムササビ観察会
- ムササビの保護活動
- 動物たちとの出会いの空間
(フィールドミュージアムスペース)

「生き生きとした“ほんもの”
の動物たちとの出会い」



自然について、人と自然との関係について学ぶ



都留文科大学

フィールド・ミュージアム構想

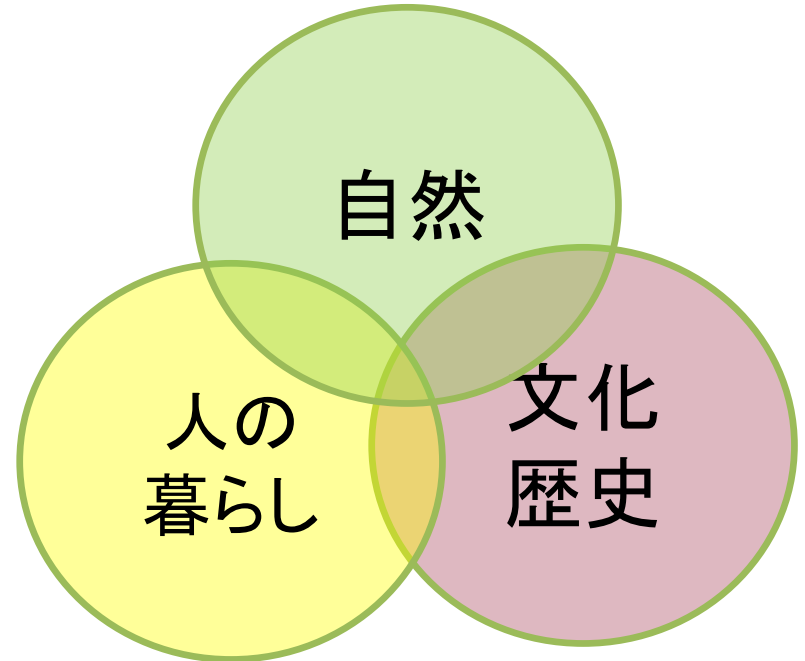
自然だけでなく・・・

「暮らしの知恵・技」

「地域の生きた文化・歴史」

地域は学びの宝庫！

機関紙『フィールド・ノート』



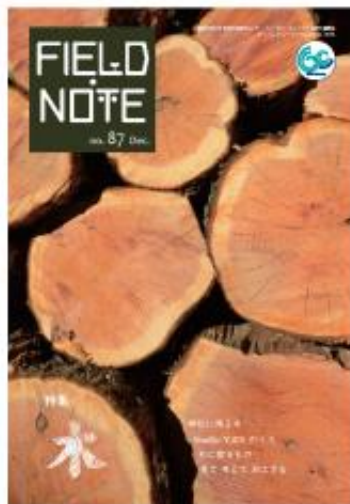
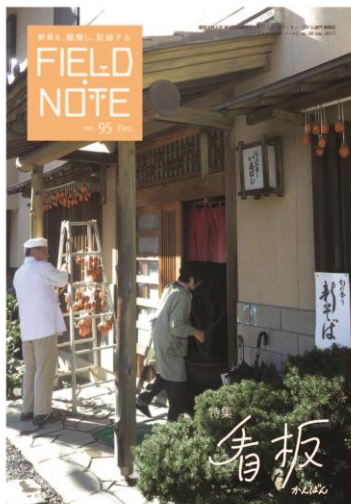
北垣憲仁氏(本学地域交流研究センター)らによる実践

自然から学び、
自然と人とは共存する地域社会の探求

『フィールド・ノート』

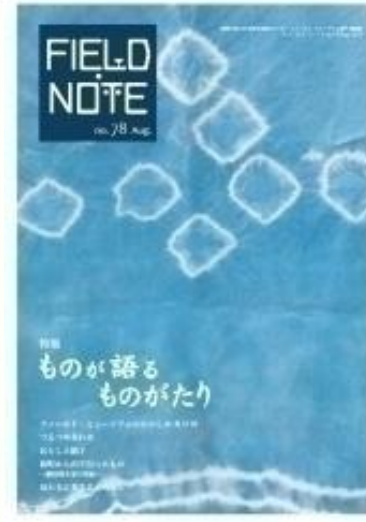
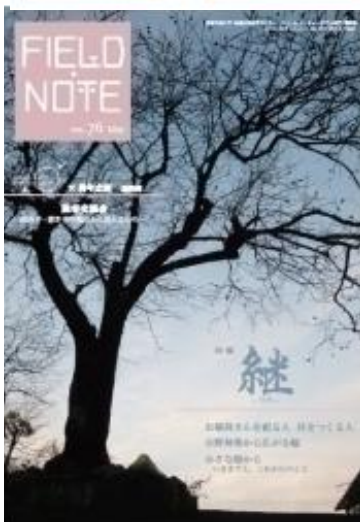
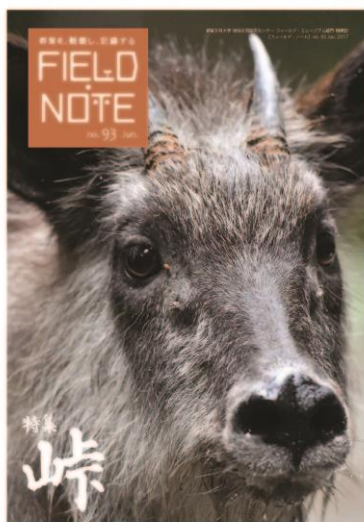
地域交流研究センターの機関紙

「地域の人と自然の交流」をテーマに、学生たちが企画・取材・執筆・編集



年4回
毎号700部

これまでに
100号を発刊



都留文科大学 環境ESDプログラム

特徴① 全学的な学科横断型プログラム

- どの学科の学生でも自由に履修。
環境問題、自然、持続可能な発展、自然と調和した生活、Ecoに興味がある人なら誰でもOK
- 大学における学びの第2軸として。
自分の学科の専攻・専門を学び深めつつ、
第二の専門として環境に関わる勉学を4年間をかけて学習
- 「環境」に関わる55の授業科目
学科の垣根を越えて自由に履修。

都留文科大学 環境ESDプログラム

特徴② 3つのコース

自分の興味・関心、将来の進路に応じて、コースを1つ選択し、4年間をかけて履修(授業16単位+実習45h~90h)

- 自然環境教育コース

学校や地域で自然環境教育をおこなう際に必要な基礎知識、基本的な考え方、基礎的な技術を修得

- 環境マネジメントコース

企業や行政等で環境対策をおこなう際に必要な基礎知識や基本的な考え方等を修得

- ナチュラルライフコース

自然環境に調和的なライフスタイルを選択・実践するための基礎知識や考え方等を修得する。

都留文科大学 環境ESDプログラム

特徴③ 自然学校や農業団体での実習

45～90時間 自然学校等の活動にボランティアとして参加

【受入団体の一例】

- ・シオジ森の学校（山梨県大月市）
- ・宝の山ふれあいの里（山梨県都留市）
- ・キープ協会（山梨県北社市）
- ・ホールアース自然学校（静岡県富士宮市）
- ・田貫湖ふれあい自然塾（静岡県富士宮市）
- ・国際自然大学校（東京都狛江市／山梨県北社市）
- ・ツインリンクもてぎ ハローウッズ（栃木県芳賀郡茂木町）
- ・グリーンウッド自然体験教育センター（長野県下伊那郡泰阜村）
- ・都留環境フォーラム（有機農業）（山梨県都留市）
- ・都留文科大学地域交流研究センター
- ・都留文科大学 田んぼクラブ

学生たちの声

実習について

- 普段できない体験をすることができた。
- 自然と触れ合う大切さを肌で感じるすることができた。
- 教職の現場で役に立つ知識を得ることができた。
- ものの見方や考え方が広がった。
- 他大学の学生と一緒に活動をおこなうことで視野が広がった。
- 人脈を広げることができた。
- これからの進路を考える上で役に立った。
- 様々な人と出会ったり、人に教えるための準備などで勉強になることがたくさんあった。
- 自分がスキルアップしていくのに気づけた。

学生たちの声

ESDプログラム全体について

- 様々な学科の学生と共に授業を受けることで刺激を受けた。
- 環境に対する知識が広がった。
- コース毎につながりのある講義を学べたことで、別々の講義でもつながりを感じながら学べた。
- 講義が全体的に楽しかった。
- 他学科の授業によって様々な知識を身に付けられた
- 教職の現場で役に立つ知識を得ることができた。
- 多学科講義を通してものの見方や考え方が広がった。
- 環境教育やそれに関わる自然・環境・社会についてある程度系統的に学び考えることができた。
- 受講するまでは、ただ何となく大学に来ていただけだったが、受講することにより目的意識が芽生え、充実した日々を送ることができた。
- 環境に対する考えや現状を知り、自身の知識や考えを深めることができた。
- このプログラムに必要な科目を学ばなければ、考えることのなかったことを考えるようになった。

学生の成長

- 講義をとおして

自学科では受けられない講義

「環境」という学びの軸

刺激・視野の広がり・体系的理解

- 実習をとおして

マナー、責任、仕事の厳しさ

やり甲斐、人脈、スキルアップ

都留文科大学のESDプログラム ～SDGsへの取り組み～



ESD と SDGs の関係

- ESDはSDGsの達成のために欠かせないもの
本来不可分である
- SDGsは、見える化・誰でも取り組みやすくするための仕掛け
- SDGs達成のためにESDを発展させつつ取り組んでいくべき

都留文科大学のESDプログラム ～SDGsへの取り組み～

課題と展望

現在： SDGsを明示的に取り入れてはいない

将来： SDGsの17の目標との関連を意識して
履修できるよう工夫する

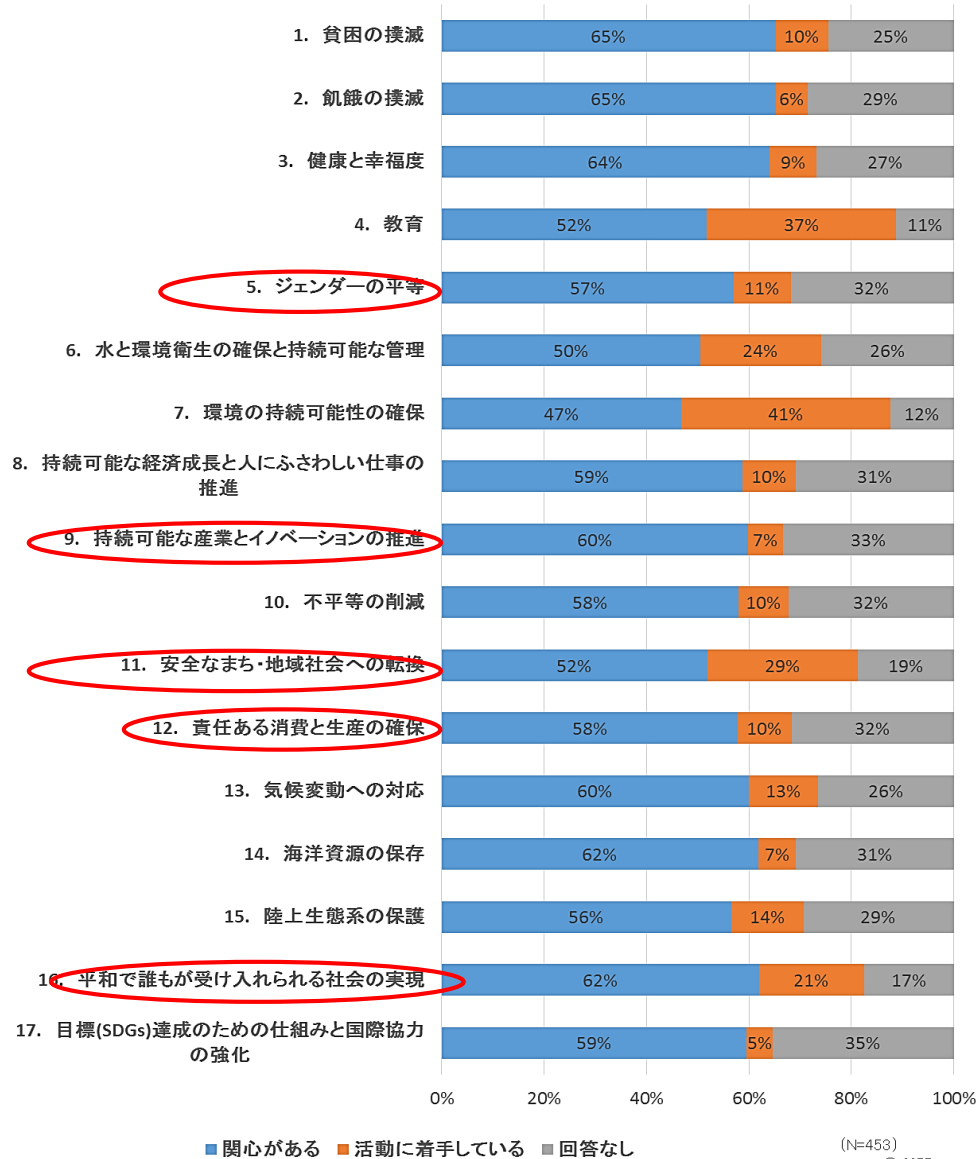
都留文科大学ESDプログラム～SDGsへの取り組み～

ESDからSDGsへ！

- 知識・技術の習得 → 行動へ！
- 自分たちで、暮らし・組織・社会 を変える！
- 学生・地域住民・行政・大学教員が1つの目標に向かって知恵を出し合い、新しい社会を創る

地域で・社会で・学生が学ぶ意味

SDGsのどの目標に関心があるか、または着手しているか



関心があり着手できている分野

関心はあるが着手できていない分野(目標)

ユネスコスクール加盟校での ESD推進における効果と課題

①「児童・生徒の変化」に関して

- 地域に関心を持つ生徒が増え、地域のイベントなどに積極的に参加や手伝いをするようになった。
- 自分たちの活動が世界とつながっている意識、プライドが見られる。
- 世界に目を向ける生徒が増えている。実際プログラムに応募する生徒が多くなった。また、卒業後の留学や、在学しながらの留学する生徒の人数が増えている。
- 学校林の活用等、様々な課題の解決に向けて、互いに協働するようになった。また、課題解決を進める中で、地域の人とつながりをもつことができた。
- 「つながるかかわる」ことを中心にコミュニケーション力が高まった。
- 児童の主体性が高まり、7年間で十数%も学力が向上した。

ユネスコスクール加盟校での ESD推進における効果と課題

②「教員の変化」に関して（抜粋）

- 地域とのつながり、地域の方とのコミュニケーションを伴う学習を、どの学年でも意識して取り組もうとしている。人権や防災学習においても、人が見えて、自身の生き方を考える実践になっている。
- 地域の実態を知り、地域を掘り起こした教材づくりしている。
- ESDに関する実践を通して指導力が向上している教師が増えている。
- ESDという言葉の意味と意義を理解する教員の増加 ESDを専門的に勉強するために海外へ出る教員の出現

ユネスコスクール加盟校での
ESD推進における効果と課題

③「学校経営の変化」に関して

- 地域とのつながり、地域の方とのコミュニケーションを伴う学習を、どの学年でも目的意識を明確にして実践するようにしている。
- 学校運営ビジョンの中に地域とのつながりを明文化し、地域と連携してESDをすすめていくことがより明確になった。
- 担当者をおき、本校の取組を発信する機会を得た。
- 地域との連携を深めるために、校内の組織体制を明確にし、積極的な情報発信を行った。
- 校内環境を整え、ESDの取組を視覚化できるようにした。

学校におけるSDGsを見据えたESDの実践

地域(自分の生活)と世界がつながっている

地域学習、地域での実践 → 地域の協力が不可欠

地域におけるSDGsを見据えた活動

世界とのつながり、地域で暮らす責任ある大人の姿

子どもたちにとってのロールモデル！

両輪！

最後に・・・

- 自分の暮らし・行動・考え方を振り返り、できることから始めよう！
- 誰でもできる消費行動によるアクション
- 平和で平等な社会へ 声をあげよう！